

令和4年度第2回倉敷市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 令和5年1月19日（木）10時～11時10分

会 場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

出席者 委 員：松井会長、宮川副会長、畝木委員、大橋委員、長尾委員、
中野委員、野見委員、三宅委員、矢田貝委員

事 務 局：平松局長、浅沼部長、古賀次長、岡課長、千代延課長代理、
大嶋主任、細田主事

保健体育課：荻野指導主幹

障がい福祉課：月本参事兼課長

傍聴者 0名

1 開会

2 報告事項

報告第1号 令和4年度市民モニターアンケートの結果について
事務局から、資料を基に説明を行った。

【事務局説明】

・市民モニター制度について

市民モニター制度とは、市政や市民生活にかかる課題などについて、市からのアンケートに答える市民モニターを募集し、市民の声を市政に反映することを目的に実施されている。インターネットを活用し、簡単に、かつ素早く調査を行い、市民生活の向上に役立てるための制度である。

・アンケート結果について

令和3年に策定した、「倉敷市スポーツ基本計画」において定めている、11の

数値目標のうち、「スポーツ大会・イベントを観戦した人の割合」、「スポーツボランティアを行ったことがある人の割合」については、毎年度行う、市民モニターアンケートの結果を用いることとしている。

基本計画の数値目標に関する事項として、問2「スポーツ観戦をした人の割合」は前年度の52.3%から56.5%と増加する結果となった。また、観戦方法として、「現地で観戦を行った」と回答した人の割合が前年度の18.2%から、32.0%と大幅に増加している。前年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により、大会を開催できたとしても、無観客での開催や入場制限を行わざるを得ない状況があったが、今年度は徐々に制限も緩和され、スポーツに関わる機会が増えてきていることが、増加の要因であると考えられる。

一方で、問3「スポーツボランティアを行ったことがある」と回答した人の割合は、前年度の6.1%から5.4%とわずかに減少している。スポーツ大会等については、前年度に比べ開催数は増えており、ボランティアを行う機会も増えてつつあるが、時間的な余裕がないという人が多いのではないかと考えられる。

【出席者意見】

長尾委員：スポーツに関するボランティアというところがあるが、スポーツイベントとはどういうものを指すのか、また、ボランティアには競技の指導も入っていると思うが、一般的なクラブチームでお金を受け取っている場合も含まれるのか。

事務局（千代延課長代理）：ボランティアの形態は様々で、有償ボランティアという考え方もある。活動に必要な旅費等であれば、含めていただいても問題ないと思う。スポーツイベント等におけるボランティアや競技指導、コーチ、チームの運営など、保護者の方がお手伝いする部分についても、スポーツボランティアに含めていただいても問題ない。

長尾委員：保護者の方の参加はボランティアだと思うが、スポーツの指導について

は、ボランティアかどうか疑問である。

事務局（千代延課長代理）：スポーツボランティアの定義はなかなか難しいものがあるが、お金を払っているからといって、一概にボランティアではないということではない。

事務局（細田主事）：スポーツイベントの例でいうと、本市では、倉敷国際トライアスロン大会や瀬戸内倉敷ツーデーマーチ等が挙げられる。

長尾委員：各専門部（倉敷市スポーツ振興協会に加盟している専門部）が行われている活動は含めないということか。

事務局（千代延課長代理）：専門部が行うスポーツ大会等で、役員として参加する、活動していただくということであれば、スポーツボランティアに含めていただいても問題ないかと思う。厳密にボランティアの定義はこうだと決めているわけではないので、広くとらえていただけたらと思う。

松井会長：専門種目に携わるコーチが、有償にしても無償にしても、ボランティアなのかどうかは疑問である。学校運動部活動の地域移行が進み、土日はスポーツクラブ化となった時に、その指導者もボランティアということにとらえていくのか。

事務局（千代延課長代理）：指導を生業とするかどうかというところが、ボランティアの境であると思う。部活動指導員は報酬をいただいているので、スポーツボランティアではないのではないかと。有償ボランティアの方で、日当や旅費が支給される程度であれば、ボランティアということの良いかと思う。

野見委員：我々障がい者からしたら、ボランティアは有償ということはないが、弁当代や電車賃など、必要経費を支給することはボランティアの範疇であると思う。

松井会長：様々な方面から意見があるので、もう一度ボランティアの線引きを行っていただきたい。

宮川副会長：現実的に、例えばボランティアに対して、主催者側が、いわゆる謝礼

みたいな形でお金を支払う場合もあり、それを受け取ったらもうボランティアではないのかという問題もあるので、細かく決めるのは難しい面があると思う。

松井会長：ある程度の線引きをしていただいて、その根拠を倉敷市としてお示しいただければと思う。

宮川副会長：アンケートでは、スポーツ推進委員の認知度についての結果も出ているが、「知らなかった」というところまでは良いのだが、「指導してもらいたいと思わない」という方が半分以上いる。以前からスポーツ推進委員の役割については、市民に広める努力をしていくという議論があったと思うが、なかなか、広まっていない現状はどうにかしなければと思う。

松井会長：スポーツ推進委員は各小学校区に2名を配置していると聞いているが、現在は何名いるのか。

事務局（細田主事）：令和5年1月時点で119名である。倉敷市スポーツ推進委員規則では、定員は130名と定められているが、地域によっては配置がうまくいっておらず、2名の配置ができていないところもある。なるべく各小学校区に2名を配置できるように候補者を探しているところである。

松井会長：推進委員の任期や定年などはあるのか。

事務局（細田主事）：委員の任期は2年間で、定年はない。

松井会長：委員の方は高齢化しているのか。

事務局（細田主事）：ここ数年は、若い方が推進委員になることも多い。

宮川副会長：地域でも限られた競技スポーツを長年さられている方はいるが、広まっていない。もう少しこういう方を核にして、スポーツへの関心を広げられたらと思う。

松井会長：宮川副会長の言われたように、そういった方々を戦略的に活用していただければと思う。

事務局（千代延課長代理）：倉敷市スポーツ推進委員協議会（倉敷市スポーツ推進委員全員で構成される任意団体）では、広報部会があり、認知度を上げることが重要だということは認識している。今まで広報くらしきなどに取り上げられることはなかったが、積極的に記事を出していただけるように働きかけたり、スポーツナビでもしっかりPRしていこうということは話し合っている。各学校の体育施設開放運営委員会にも、なるべく推進委員が関わっていけるようにと考えている。

畝木委員：現在、スポーツ推進委員をやらせていただいているが、確かに認知度は低いと感じている。近所の人でさえ知らないことが多い。先ほどの、スポーツナビや広報くらしきの活用はさせていただいているが、どこまで市民の方が見ているかはわからない。学校体育施設開放運営委員会では、参加する度に推進委員の活動やイベント等をPRするようにはしているが、なかなか広げていくのが難しい現状である。

松井会長：ニュースポーツも当然行っているのか。

畝木委員：行っている。現在、ニュースポーツの普及・推進を行うことが、活動の大部分を占めている。

松井会長：年齢に関係なく、様々な方がそういったニュースポーツに参画していただけるということか。

畝木委員：高齢者支援センターや放課後児童クラブなどから指導の依頼はある。

松井会長：多方面に需要はあるということである。それが上手くつながっていないということではないか。高齢者支援センターや公民館活動、体育施設開放委員会など、多方面で需要があるのであれば、推進委員の認知度向上について、事務局にもしっかり協力していただけたらと思う。

3 議 事

議案第1号 令和4年倉敷市スポーツ章受章候補者の選考・推薦について
事務局から、資料を基に説明を行い、原案通り承認された。

【事務局説明】

本市のスポーツに関する表彰制度は、出場した大会とその結果によって、複数の表彰があり、いずれも市長名で表彰される。このうち、「倉敷市スポーツ章」については、倉敷市スポーツ章規則第3条の規定に基づき、倉敷市スポーツ推進審議会が推薦した者から、被表彰者を定めることとなっている。

今回の審議会では、候補者を選考し、選考された候補者を倉敷市へ推薦していただいた後、受章者が決定されるという流れになる。スポーツ章及びスポーツ奨励章については、令和5年2月9日（木）に、くらしき健康福祉プラザのプラザホールで表彰式を行う予定としている。

4 フリーディスカッション

- ・テーマ「本市のスポーツ実施率向上に向けた取組について」

事務局から、資料を基に説明を行った。

【出席者意見】

矢田貝委員：アンケートでは、スポーツを全くしなかった方が減ったということだが、ここ最近の実施率についてはどういう状況か。

事務局（細田主事）：本市のスポーツ基本計画で示している、週1回以上スポーツをしている成人（20歳以上）の割合は、計画策定時の令和元年度の現状値として42.9%となっている。令和3年度については、44.3%と、令和元年度からは若干上昇している状況である。20歳から64歳までの年代が若干上昇しており、65歳以上の方が少し下がっている状況である。なお、令和3年度の全国調査の結果では56.4%となっており、本市とかなり開きがあるという状況である。

矢田貝委員：年配の方が少なくなっているということは、普段は外で集まって運動をされている方が多かったのではないかと思う。一方で、自宅でトレーニングをするようになった人も増えたのではないか。スポーツナビの

認知度もあると思うが、トレーニングをされている方や市の関係者で、1分ぐらいの軽い運動の動画をあげていただくといった方法もあると思う。

事務局（細田主事）：スポーツナビに動画を投稿できるかどうかは分からないが、倉敷市スポーツ推進委員協議会の広報部会で、体操やニュースポーツを行っている様子を動画で撮って投稿すれば、住民の健康増進やスポーツ推進委員の広報としても役立つのではないかと考えている。

松井会長：やはり、見ることで広報につながると思う。また、スポーツは若年者から、高齢者まですべての人間が健康になるということをテーマにしたほうが良いのではないか。倉敷市にはそういった部分を推進していただく必要があると思う。

中野委員：私自身、スポーツは苦手で、どうしたら良いのか難しいところだが、関係者のネットワークが不足しているのではないかと感じている。スポーツ推進委員が一生懸命に地域で活動、広報していくことには限度がある。ネットワークの中にどういう人たちが入ると広がっていくのか、スポーツを行うきっかけづくりができるのか、考えていく必要があると思う。スポーツ推進委員の活動の報告などはどこかに公開しているのか。

畝木委員：倉敷スポーツナビに活動の報告を上げており、誰でも見られるようになっている。

中野委員：コロナが落ち着いてきたら、ネットワークのつながりができそうなところに声をかけて報告会を行ったりするのも良いと思う。前回のアンケート結果でも、スポーツナビの認知度が上がっていない現状の中で、活動が市民の目に触れないと、なかなか広がっていかない。社会福祉協議会の「通いの場」というところでは、地元の小規模なところで体操教室を行っており、そういった小さなネットワークとスポーツ振興課がつながるような仕組みが必要ではないか。また、スポーツボランティアと聞くとハードルが高い感じがする。スポーツボランティアと聞いて、何か難

しいことをやるのではと感じる人もいると思う。スポーツボランティアとはどういうものなのかをアピールするために、何かやる必要があるのではないか。また、分からない人にもなじみやすいような言葉に置き換えることも考えられる。

松井会長：組織のネットワーク化やボランティアを少し噛み砕いた表現の仕方にかえることは重要だと思う。私が所属している県のスポーツ協会では、競技スポーツだけではなく、生涯スポーツの振興にも取り組んでいる。生涯スポーツでは、各市町村の体育・スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、レクリエーション協会の情報などを統括している。一方、競技スポーツは、県内61競技団体との繋がりがあり、国体における41種目のほかにも、スポーツ吹き矢や綱引き、ダンスなど、生涯スポーツも含まれている。また、ニュースポーツも関わっていくとなると、情報を集めて提供していくことは非常に困難であると感じている。倉敷市においては、あらゆるスポーツの情報、スポーツ団体、組織のつながりがわかるような体系図のようなものがあれば、様々な団体と連携でき、スポーツの裾野が広がっていくと思うので、市内の情報をまとめていただいて、次回の審議会でご提示していただきたい。

また、スポーツボランティアについては、自分自身がスポーツをしているので、こういうものだということはイメージできるが、知らない人が聞くと、何をするのか、資格が必要なのかといったことを考える人もいるのではないか。噛み砕いてわかりやすい表現の仕方にかえるという点についても検討していただきたい。

野見委員：障がい者スポーツでも、ボランティアに来られる方で、何をしたいかわからない方がいる。聞いていただければ良いのだが、聞けずに何もできないということもある。私はテニスをやっているが、例えばボールを拾う、ネットを張る準備を行うなどできることはある。それ以上のことはしてくれなくても良いということを伝えている。大会でも、ボランテ

ィアに3、40人来ていただいて、大会の運営からジャッジをしてもらうこともある。個人的には、車いすを押したり、後ろを振り返るのを手伝ってもらわないようにしている。先ほどの話にもあったように、知られてないからできないということが多い。くらしき健康福祉プラザでやっているスポーツ教室なども、広報くらしきに載せていただいているが、見る人が少ないのか、響かないのかわからないが、もう少し興味を持っていただきたい。障がい者のスポーツに興味を持っていただける方であれば、普通のスポーツでも興味を持って、携わってもらえるのではないか。やはり、具体的にこんなボランティアがあるということをしっかり広報して、これぐらいなら自分ではできるから行ってみよう、携わってみようと思っただけることが重要である。

長尾委員：ボランティアをやりたい人が登録するようところが倉敷市にはあるのか。

事務局（千代延課長代理）：ボランティアセンターが社協（倉敷市社会福祉協議会）にある。スポーツ振興課が実施しているツデーマーチでは、通常の開催であればボランティアセンターで一般ボランティアの募集をしている。今回の大会はコロナ禍での開催となり、なるべく関わる人数を少なくしているため、募集はしていない。

中野委員：社協は募集は行っているが、ボランティアの育成までは行っていない。ボランティアそのものの考え方以外の、個々のボランティアの育成は現実にはできていない。先ほど野見委員が言われたように、特別なことをやるのではなくて、一緒にボランティアをしていただきながらスポーツを楽しんでもらうといった感覚の方が、スポーツが苦手な私自身にとってはボランティアを行うきっかけになりやすい。くらしき健康福祉プラザで障がい者スポーツを何度か見たことがあるが、まずは、そのような形で関わっていくことが大切だと思う。スポーツと聞くと競技スポーツのことだと感じて、ハードルが高い。

松井会長：競技スポーツはメディアも取り上げやすい。岡山県スポーツ協会も、競技スポーツ振興だけを行っているにとらえられている。そうではなくて、レクリエーションスポーツやニュースポーツも所管しているというところを、県民の皆様に伝えていかないといけないと思っている。スポーツは、競技スポーツだけではなくて、楽しむ、健康になるといった生涯スポーツの考えもあること、それがスポーツの大きな定義ではないかと思う。その辺りを事務局には踏まえていただいて、生涯スポーツやボランティアにご尽力いただいている方にもしっかりと目を向けていただく必要があるのではないかと。

大橋委員：今回のテーマであるスポーツ実施率向上の取組で考えられるのは、多くの方が、健康になるために行うウォーキングなどは、スポーツであるという意識を持たれていないのではないかと。ウォーキングもスポーツであるというところをしっかりと市民の皆さんに周知していけば、実施率は向上していくのではないかと。スポーツボランティアについても、例えば大会前に準備だけ手伝うということも、私はボランティアだと思うが、手伝いに来ているだけでボランティアだと思わない人も少なからずいると思う。そこがボランティアだと認識してくれるように周知していく必要があると思う。

宮川副会長：スポーツをしてない人は、何のためにスポーツをするかという目的がわかっていないのではないかと。スポーツをやったら健康に良いということはわかっているかもしれないが、具体的にどういう意味があるかということが分かっていない。だから、スポーツをすること以外の優先順位が高くなって、スポーツを実施していない状況にあるのではないかと。少し話の筋とずれるかもしれないが、コロナ禍でスポーツや運動が制限されてきた状態で、運動が大切だということを再認識できたのではないかと。こうした現状を踏まえ、改めて、スポーツは何のためにするのかという目的を明確にするような取り組みが必要である。ま

た、スポーツに関する窓口が身近にないと感じている人も大勢いると思うので、整理していくことが必要である。

松井会長：事務局にはぜひ、参考にさせていただきたいと思う。生涯スポーツに関連して、学校運動部活動の地域移行について、現状の取組み状況はどうなっているのか。

荻野指導主幹：保健体育課とスポーツ振興課で、実態を調査するために現在アンケートを実施している。アンケートについては、今年度中に集計し、結果をまとめる予定である。

松井会長：地域移行については、将来的に行政としてどこが所管していくのか。

荻野指導主幹：まだ決まっていない。

松井会長：今までの日本の体育の振興は、学校運動部活動が大きな役割を担ってきた。地域移行を進めていけば、スポーツの歴史が変わっていく。子どもたちや保護者に弊害がないように進めていくことは非常に難しいと思うが、教育委員会とスポーツ振興課でしっかり連携をとっていただいて、本市のスポーツ振興に寄与できるような施策を講じていただきたい。

5 その他

・部活動の地域移行について

部活動の地域移行について、現在、本市では、教育委員会が学校長と教員に対してアンケートを実施しており、集計結果をまとめているところである。今後、2月1日から、生徒、保護者に対して、2月13日から部活動指導員に対して、それぞれアンケートを実施する予定である。

また、1月末をメ切として、スポーツ振興課、文化振興課がそれぞれ受け皿となり得る団体に対して、アンケート調査を実施しているところである。

実施したアンケート調査の結果については、年度内をめぐりに集計結果をまとめ、次年度以降、地域移行を検討していく際の資料として活用していく。

・水島緑地福田公園サッカー・ラグビー場（人工芝）について

水島緑地福田公園内の陸上競技場跡地に整備を進めていた、人工芝のサッカー・ラグビー場が2月1日（水）から供用開始となる。Jリーグの公式練習場等で使われている高水準の人工芝を採用した、サッカー2面分のグラウンドに加え、ウォーミングアップ場や会議室、更衣室のある2階建の本部棟を有した新施設になっている。

・福田公園のプールについて

福田公園のプールについては、現在、基本設計を行っているところで、その中で、プールの具体的な仕様が決まる予定となっている。令和5年5月ごろには、プールの全体像を形にしたいと考えている。

・第36回瀬戸内倉敷ツーデーマーチの開催について

例年3月に開催している「瀬戸内倉敷ツーデーマーチ」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年連続で中止としていたが、今年度は感染症対策を講じ、3月11日（土）、12日（日）の開催に向けて、準備を進めているところである。例年からの主な変更点としては、1日あたり3,000人の定員を設けること、当日の受付は行わず、事前申し込みのみとすること、感染のリスクを回避するため、送迎バスが必要な30km、40kmの長距離コースは設けないこと、そして、主会場でのステージアトラクションを実施しないこととしている。

1月5日から申込受付を開始しており、昨日時点（1月18日時点）で、土曜日が2,629人、日曜日1,953人の方が申込をされている。（1月31日をもって申込みは終了した。）